オピニオン

道 My Way

NPO法人ステップ（岡山市）　原昌広 理事長

不登校児の未来支える

2024年4月7日付　山陽新聞

ステップの事務所で子どもたちがゲームに熱中する様子に笑顔を深める原さん。「今この時を楽しんでほしい」と願う＝岡山市北区下石井

中学校　岡山市長賞

姉の居場所

岡山市・岡山大付属中２年　**岡本　康誠**さん

2022年度の小中学校の不登校は過去最多の約30万人。岡山県内では3668人に上る。この問題について僕が関心を持つようになったのは、姉の存在にある。

姉は2024年4月から高校生になった。毎日暗いうちに家を出て、暗くなってから帰宅する。疲れ切ってへとへとなくせに、なぜかキラキラ輝いている。悔しいかな、これぞリア充である。そんな姉からは想像もつかないが、ほんの数か月前の中三までは不登校だった。

いつまで続くかわからないこの状況に「お前だけずる休みかよ。」と苛立ったこともあるが、友達もいて、部活もし、勉強も普通にこなしていた姉が、何に苦しみ不登校になってしまったのか、僕には理由がわからなかった。やっと最近になって姉から、当時はただ不安で自信がなく、自己嫌悪でいっぱいだったと聞いた。では今は？と聞くと、「私の居場所が見つかったから」と答えた。「姉の居場所」のきっかけは、美術部の顧問の先生だった。姉の作品を観て、姉の想いや表現を読み取り色々な話をしてくれたそうだ。そこで姉は、自分に自信を持っていいんだと自分を肯定することができたという。

僕と姉が通う中学校には、教室に入れなくても相談室という部屋があり、オンライン授業を受けることができる。そこは保健室やスクールカウンセラーの先生と連携し、姉をいつでも待ってくれている先生がいた。教室にはあまり入れなかったものの、姉はそこで学年を超えて友達をつくり、今でも交流を深めている。次々に「居場所」を増やしていった姉は、自分のやりたいことを見つけ、努力し、第一希望の高校へ入学した。今はさらに具体的な目標を持ち、精一杯の毎日を送っている。

この記事の「不登校になっても人生を楽しくすることができる」という言葉が印象的だ。不登校はマイナスイメージが大きいが、僕たちが持つ未来は無限に広がっている。個々が大切にされ、様々な生き方が認められるようになった今、ごく小さな居場所から大きな未来につながる居場所へと広げていくことは難しくないように思う。社会には、僕たちの「居場所」を見付けられるように支援を広げてほしい。そして自分たち子どもも誰かの居場所になれるようお互いを大切にしたい。

来年僕は受験生だ。姉のように自分の「居場所」が広がるような目標を持てているだろうか。姉にエールを送りつつ、自分も姉に負けない時間を過ごしたいと思っている。

寸評

不登校を経験した姉との対話に温かさを感じました。次々に「居場所」を増やしていった姉の話は「不登校になっても人生を楽しくすることができる」という記事中の言葉と重なり、心に響きます。

（C）山陽新聞社　無断複製・転載を禁じます。